

## 「しみん基金・こうべ」の公開審査会に参加して

久保田綾子(行財政局財務課)

平成16年3月9日午後1時より、コムスタこうべで「しみん基金・KOBÉ」の平成15年度第1回助成事業公開審査会があり、あじさい基金を代表して菊本さんとその模様を見てきました。わたしたちの呼びかけに応じて協力して下さったみなさんに、また市民活動に関心のあるみなさんにご報告するべく、概要を記します。



公開審査会の様子(プレゼンテーション)

### しみん基金・KOBÉとは

「しみん基金・こうべ」は、市民活動の基盤づくりを従来のように公的支援のみに求めるのではなく、市民/企業市民が自発的に寄付を出し合い、みずからの公益的活動を支えていこうとする取り組みです。具体的には

- (1)趣旨に賛同する個人および団体の寄付を募る
- (2)集まった寄付金を年に1-2度の公開審査会で選ばれた市民活動に対して助成するというしくみです。

この制度の便利なところは、資源の配分という一番難しい決定を、信頼に足る専門家に委ねられる点だと思っています。市民活動に対して何か協力したいという気持ちを持っていても、どこにそれを届ければいいのか分からないというのが、私自身も含めて大多数ではないでしょうか。そういった従来取りこぼされてきた層を取り込むことができるのがこの基金であると言えます。もちろん、ある方にとってはその点が逆に不満となるでしょう。そういう方々は基金を経由するまでもなく、直接的に任意の市民活

動に参加、協力するという選択肢を取られることと思います。また、先ほど「信頼に足る」と書きましたが、本当にそう言えるのでしょうか。今回はその点も確かめるために審査会を見学してきました。

### あじさい基金とは

「あじさい基金」は、しみん基金・KOBÉの趣旨に賛同する神戸市役所職員有志による同基金を支える会です。直接しみん基金・KOBÉの個人会員になるには年間3000円/口が必要ですが、あじさい基金では広くみなさんの参加を得るために毎月200円/月という気軽な金額に設定しました。しかも信用組合の「普通預金グループ会費引去」を利用しますので、手続きは最初の申込だけ、手数料はかかりません。集まったお金はあじさい基金の名で定期的にしみん基金・KOBÉに贈ります。(第1回贈呈はH16.1.22、26,000円でした。)

### 平成15年度第1回助成の概要

予備知識の整理はこの辺にして、今回の助成の概要を紹介しましょう。

(助成枠) 300万円(助成決定額:2,921千円)

(審査員)以下の5名

- ・松村敏明(社会福祉法人えんぴつの家理事長)
- ・立木茂雄(同志社大学教授)
- ・清水勲夫(財団法人野外活動協会専務理事)
- ・島田誠(アートサポートセンター神戸代表)
- ・山口一史(ひょうご・まち・くらし研究所専務理事)

(申請団体) 助成申請団体は44、うち書類選考を通過し、プレゼンの機会を与えられたのは24(うち当日棄権1)

(プレゼン方法)1団体4分(3分経った時点でベル)

(選考方法)全ての団体のプレゼンが終わった後、審査員が支援したい事業に持ち点を投じて決定します。助成対象枠は団体数ではなく予算の上限で決まります。選ばれた団体には、当選順位に関わらず申請金額が満額支給されるしくみになっているため、1位当選の事業より次点当選の事業の方が助成額が多いということもありえます。これは、必要なところに必要な額が行くわけですから、ある意味とても合理的です。予算がなくなるまで投票が繰り返されます。(なお、各団体へは事前に審査員が訪問しヒヤリングを行っています。)

(審査の流れと審査員コメント)

13:00 開会

理事長挨拶 審査員紹介 プレゼン方法および審査方法説明

13:14 プレゼン(No.1~6)

13:40 主要質疑

・活動から事業になりつつある。継続のための責任あるプランを持つべき。

・事業が専門的であるのに対してプログラムが甘すぎる。もっと時間も頻度も必要。

・公的団体(市社協)の先行事例との連携を考えると、

・(リハビリ歌体操実演に対して)もっと笑顔で。

13:50 プレゼン(No.7~12)

14:18 主要質疑

・会費のみで運営できるようになっていない。

・財政的なしくみが不明確。

・学生のボランティアになぜ謝礼を払う必要が?いくらかでも払わないと責任を持ってやってもらえないというのはボランティアマネジメントが弱いということ。

・継続的な活動を期待。単発の助成を当てにせず財政基盤を広げること。そのための工夫は?

・(こうした)共感的な優しい場だけでなく企業等厳しい相手に向けても営業を仕掛けるべき。

・マネジメントとガバナンスの分離を。お金集めの専従を置くぐらいの勢いで。

・前年度、前々年度の黒字で申請額くらい賄えるではないか。

14:30 (休憩)

14:38 プレゼン(No.13~18)

15:04 主要質疑

・スポンサーの開拓努力は?

・事業の対象者がわずか30人というのはコストを考えるともったいない。もっと他団体とつながってやれば?自分のところだけでやろうと思わず。

・1年目の財源はどこから都合したのか。

・より似つかわしい助成制度(科学技術振興費)には申請しなかったのか。

・(ある事業内容について)非常に面白く思うが、素朴な共感に流されないように戒めながら言う運営に大変にセンスが要求される事業である。対象はどうするのか、具体的な運営は。

・この基金は文化助成には若干冷たい傾向が。もしだめだったら別の制度を紹介する。

15:20 プレゼン(No.19~24)

15:42 主要質疑

・別の助成の場に出した事業との差異は。(助成のかけもちをよく見かける。)

・提供しようとしているサービスのレベルは、資格まで備えているのか。

・いいことしか言わない。あるはずの問題を率直に伝えてほしい。

・既存の成功事例とコラボレーションすれば。

・(ある団体の「子ども風呂敷市」という企画に対して)いいネーミング。大事にするように。

・県のコミュニティビジネスに応募すればどう?あと一歩つめればものになるレベルに来ている。

・ボランティア、コミュニティビジネス、有償ビジネス、自己規定が曖昧。

16:00 審査員による選考(その場で)

投票(団体名の書かれたボードに点数を示す)

マグネットを置いていく)

### 選考結果

事業名	団体	助成額
お話の会「ねっこぼっこの会」	ねっこぼっこの会	151 千円
地域で子育て夏休みワンウィーク・サマースクール	子育て支援グループ「スマイル」	500 千円
DV 被害者支援事業	ウィメンズネットこうべ	500 千円
青少年健全育成のためのワークショップ	非暴力ねっとわーく	22.5 千円
日系ブラジル人の子どもたちの母語教室	関西ブラジル人コミュニティ	500 千円
音楽療法に使用するトーンチャイム購入資金等	障害者共同作業所「にじのかけ橋」	125 千円
「くらしのサポート」のためのコーディネーター研修	市民サポートセンター明石	240 千円
おやこまつり	神戸中央おやこ劇場	180 千円
高齢者・重度障害者の生活困窮者への外出支援活動	(特)移動サービスネットワークこうべ	500 千円
全 9 団体 計		2,921 千円

### 審査員講評

・前回と比べると均一化。抜きん出ていいも悪いもなかった。

・事業の対象者を具体的に絞ること。

・活動そのものはいいが、申請された事業が？な場合がある。

・他の助成を受けていない切実さを考慮した。

・NPO は主宰者の代替わりの時が一つの節目。存続のために趣旨の異なるあちこちの助成を取りに行くのは小手先の対応。

・もうちょっと受益者から会費を取ってほしい。それだけお金を取れるサービスとすること。顔の見える人(活動の受益者)からは取りにくいけど、顔の见えない人(しみん基金・KOBE の出資者)から取れるというのはダメ。  
・(事務局に対して)申請書類の様式、再考を。事業と予算の関係が見えにくい。

副理事長による謝辞

16:35 閉会

### (感想)

選考も含めてみっちり 3 時間半、真剣勝負の場に立ち会ってとても疲れましたが、審査員

の目のつけどころは非常に参考になりました



投票する審査員

(おもしろいと言っていいくらいでした) 考えてみれば、「人の役に立ちたい」というある意味とても利己的な動機のために人のお金をあてにするわけですから、よほどの説得材料が必要です。なぜ人からお金をもらってまでそれをしなければいけないのか？できる努力をした上で支援を求めているのか？誰のための事業なのか？なぜその受益者に負担させられないのか？既存の公的サービスとの重複はないか？事業の問題点、課題に気付いているか？そして、代表者(発表者)の信頼性も重要です。時間オーバーや不正直な(あるいは

そう見える)態度は、非常にマイナスに響くと感じました。自分がプレゼンする側に立つ



#### 審査員の講評

時には参考にしたいと思った次第です。

全体としてとてもしっかり選考されている

と感じました。そして自分がこの場に立ち会うことになったきっかけが、あじさい基金の運営に関わったことにあると思うと、それだけで十分な見返りとなる経験でした。

#### (さいごに)

審査会から1ヶ月以上たってからの報告になってしまったことをお詫びいたします。今後ともできるだけこまめに報告していきたいと思います。また、基金の運営についてもさらに改善を加えていきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

(H16・4・19)

## 公開審査会で 気づかされたこと

髙本 郁(東灘区役所)

### 《幅広い市民活動》

「しみん基金・K O B E」の今年度の助成事業に応募した団体は44団体。そこからヒヤリングなどの調査を経て、当日の公開審査会に参加できた団体が24団体。そのジャンルも様々で、その中にはこれまで私が知らなかった分野の活動もあり、市民活動の幅の広さと深さを実感させる審査会であった。そして、このような活動によって支えられている人がおり、このようなNGO・NPOの活動なくしては社会は成り立たないこと、行政はそのようなことをあまり知らないこと、行政のやっていることは社会の中では実は一部分でしかないという当たり前のことを改めて気づかされるとともに、これは、これから行政とNGO/NPOのパートナーシップを考えるうえで基本的なことではないかと感じた。

### 《公開審査の意味》

「しみん基金・K O B E」の助成事業の特色

は何と云っても公開審査である。市民活動に助成をする事業はいくつもあるが、応募してもその結果の通知が来るだけで、なぜ選考されなかったのか、あるいはなぜ選考されたのかは伝えられることはない。選考されなかったのは助成事業の目的にかなっていなかったといえはその通りなのだろうが、その判断基準や何が不足だったのかは分からない。いわばブラックボックスである。「しみん基金・K O B E」の公開審査は、それぞれのプレゼンテーションを審査員だけでなく各応募団体も聞き、審査員が質問を投げかけ応募団体がそれに答え、審査員は自らの判断基準を明らかにして、本音も交えて講評をするという形で極めてオープンな選考が行われている。しかも、投票もみんなの前で一覧表に自分の票を張るとい形なので、よく見ていれば誰がどの団体に投票したかもわかるのである。ここまで徹底して公開した審査を行う基金は他にはないだろう。必要性を訴える言葉とそれへの反応、それは応募団体にとっても審査員にとっても極めて重い意味を持ち、公開である

からこそ存在する緊張感がそこにはあったように思う。

《市民活動と選考基準》

ところで、そもそもそれぞれの市民活動に点数をつけること自体不可能で、こちらの方が重要な活動だなどという評価を出来るはずがない。選考の結果は活動への評価ではないと基金の常務理事の野崎さんが強調していたし、「どの事業が良い悪いは判断できない。この助成を必要としている切実さで判断した」という審査員の講評のとおりである。これもこの基金の特色といえる。

各団体は4分間でそれぞれの事業の必要性を説明するのだが、おそらくもっと訴えたいという気持ちに違いない。きちんと活動内容が理解されているかどうか不安を感じるのは当然だろう。しかし、選考の過程と審査員の

顔ぶれを見ていて、活動が理解されないまま選考から落とされるということはないと確信することができた。

「しみん基金・K O B E」は、市民活動をしているメンバーによって作られた市民活動のための基金で、大企業などの助成のように豊富な資金を持たず、助成総額は他のものと比べようもない。助成総額を増やし何とかもっと支援できる活動を増やせたらと痛感するのであるが、それはそれほど簡単なことではない。そんな中、副理事長の村井雅清さんからワンコインカンパこそが「しみん基金・K O B E」の原点だと聞かされた。まだまだ金額は少ないが、このあじさい基金への期待が寄せられていることを強く感じたのである。

---

最後に今回選考されなかった団体と事業を紹介しておきます

- 1、要介護通院支援患者のヘルスケア（NPO法人支援の会ひまわり）
- 2、傾聴ボランティア養成講座（（特）日本ホスピス在宅ケア研究所）
- 3、歌体操（ひな菊会）
- 4、新しい時代の子育ちを考える（明石不登校を考える会）
- 5、主として阪神淡路大震災被災者を対象とする活動（神戸市シルバーカレッジ“わ”兵庫パンジーの会）
- 6、「有機農法による農塾」と「都市と農村の交流」と「農イベント」（NPO法人福祉支援センターアグリネット）
- 7、設立5周年記念シンポジウム（特定非営利活動法人神戸オレンジの会）
- 8、性的被害予防とケア実践講座事業（特定非営利活動法人セクシュアリティ・カウンセリング神戸）
- 9、六甲山をフィールドにした生涯学習・総合的な学習の展開（六甲自然保護センターを活用する会）
- 10、K - E Nプロデュース in Sonic Hall（Art Produce & Management Network）
- 11、ネットによる市民の安心システムの構築とその実証事業（NPO国際情報科学協会）
- 12、シニア・高齢者・介護者向けラジオ情報番組制作・放送事業（げんきK O B E）
- 13、ろまん巡回映画事業（（特）巡回映画サークル）
- 14、子供たちによる多様なメディアを活用した地域活性化事業（ツール・ド・コミュニケーション）
- 15、環境改善事業（ハッピークラフト）〔辞退〕

会計報告（2003年8月1日～2004年6月30日）

【収入】 84,500円                      【支出】 しみん基金・こうべへ贈呈 26,000円

【現在高】 58,500円